

Bruce

Titus

ブルース・リウ

2021年 第18回 ショパン国際
ピアノ・コンクール 優勝

ピアノ・リサイタル

～世界を魅了するスケール“太陽のような音楽”～

- ◆ラモー：クラヴサンのための小品(クラヴサン曲集、新クラヴサン組曲集より)
- ◆ショパン：モーツァルトの歌劇「ドン・ジョヴァンニ」の“お手をどうぞ”の主題による変奏曲 変ロ長調Op.2
- ◆ショパン：ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調「葬送」Op.35
3つの新練習曲
- ◆リスト：ドン・ジョヴァンニの回想 S.418

※曲目、曲順はやむを得ない事情により変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

©W. GRZEDZINSKI

2023 2/18(土) 14:00開演 (13:15開場) 上野学園ホール

S席 7,000円 A席 6,000円 (全席指定 税込) ※未就学児の方のご入場はお断りさせていただきます。 広島市中区白島北町19-1 TEL:082-223-6367

■エディオン広島本店(東館9F) 082-247-5111 ■チケットぴあ[Pコード:227-767]web受付/セブン-イレブン(マルチコピー機)

■ローソンチケット[Lコード:62394]web受付/ローソン(Loppi)他 ※発売日特電10/29(土)10:00~23:59 0570-084-681(Lコード不要)

※車椅子スペースで鑑賞をご希望されるお客様は事前にHOMEイベントセンターまでご連絡ください。

一般発売日:2022年10月29日(土)10:00~

お問い合わせ

HOMEイベントセンター 082-221-7116 (平日10:00~17:00)

主催: 広島ホームテレビ

“太陽のような音楽”を奏でるブルース・リウの みずみずしい演奏に身も心も酔う

こんなにも心が高揚し、愉悦の表情が浮かび、至福のときを過ごせるショパンの演奏がこれまであっただろうか。ブルース・リウの演奏は、陽気でのびやかでスケールが大きい。恩師のダン・タイ・ソンいわく「太陽のような音楽」。その長所が2021年のショパン国際ピアノ・コンクールで聴き手の心に深く浸透する演奏となり、審査員と聴衆の心をとらえた。

「僕のモットーは、常に新しいアイデアを演奏に盛り込み、新鮮さを備えたみずみずしい演奏をすること。楽譜と対峙する際にはインスピレーションを大切に、クリエイティブな演奏を心がけています。いつも同じ演奏をするのではなく、即興性やそのときに感じたものを率直に表現したいのです」

こう語るブルース・リウは素顔もおおらかでユーモア好き。周囲の人々を幸せ色に包む。

アーティストには自身の個性を存分に発揮し、十八番と呼べる作品が存在するが、ブルース・リウはショパン「モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》の『お手をどうぞ』による変奏曲」。ショパン・コンクールでも演奏し、気負わず気取らず自然体の演奏ながら圧巻の表現力と説得力で、聴き手の心をわしづかみにした。私は何度かショパン・コンクールを現地で聴いたことがあるが、この曲を聴いたことはない。その稀有なる選曲でブルース・リウは存在感を発揮し、新たなショパン観を提示した。

現在は「バロック音楽にも興味があり、ハイドンやモーツァルトまでいろんな作品を弾いていきたい」と語る彼だが、今回はリストが登場。またもや斬新な解釈と表現に驚かされるに違いない。

往年の巨匠の演奏に魅了されているブルース・リウは、アルフレッド・コルトー、サンソン・フランソワ、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリに憧れている。みな歴史に名を残す偉大な個性派だ。今度は若きブルース・リウが、ピアニストの新たな歴史を刻んでいく。その瞬間に立ち会いたい。

伊熊よし子（音楽ジャーナリスト）

ブルース・リウ PIANO

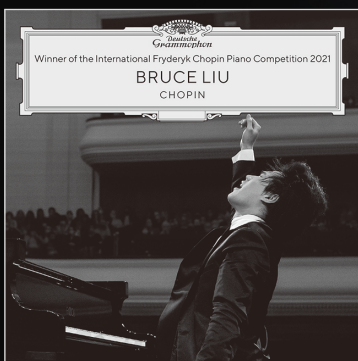
ブルース・リウは2021年の第18回国際ショパン・ピアノコンクールで優勝し世界の注目を集めた。コンクールでの成功後直ちに世界ツアーを開始し、パリのシャンゼリゼ劇場、ウィーンコンツェルトハウス、ブリュッセルのボザール、東京オペラシティ、サラ・サンパウロ、フィルハーモニア管弦楽団との共演でロイヤル・フェスティバル・ホールに出演。またワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とアメリカツアーを行い、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、NHK交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団とも共演。これまでの特筆すべき出演にはクリーブランド管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、中国NCPA管弦楽団とのアメリカツアーが含まれる。今後はロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との初共演、モントリオール交響楽団とのヨーロッパツアー、ウィーン交響楽団との学友協会デビュー、さらにラ・ロック・ダンテロン、クラヴィア・フェスティバル・ルール、ラ

インガウ、エディンバラ、「ショパンと彼のヨーロッパ」、ドウシニキ、グスタード・メニューインなどの音楽祭出演が予定されている。ドイツ・グラモフォン専属アーティスト。ショパン・コンクールのライブ録音を収録したファースト・アルバムはフレデリック賞を受賞、グラモフォン誌のクリティクス・チョイスとエディターズ・チョイスのほか、2021年のベスト・クラシックアルバムに選出されるなど国際的に高い評価を受けている。「私達が共通して持っているものは、私達がみな違っているということです」とこの若きピアニストは言う。中国人の両親のもとパリに生まれモントリオールで育ったブルース（シャオユ）・リウの人生は、常に文化的多様性の中にあつた。ヨーロッパの気品、中国の幾千年の伝統、北米のダイナミズムと開放性—それが彼の姿勢、人格、個性を形成してきた。楽観性と笑顔をもって芸術家の道程をたどりながら、リチャード・レイモンドに学び、現在はダン・タイ・ソンに師事している。

Bruce Liu

©Yanzhang

祝！ショパン国際コンクール優勝！ ハイ・レヴェルな混戦を制したライジング・スター！



ブルース・リウ

第18回ショパン・コンクール優勝者ライブ

SHM-CD: UCCG-1890 ¥3,080(税込)

- ドイツ・グラモフォンとショパン・インスティテュートのコラボレーションにより、第1位優勝者、ブルース・リウのコンクールでのライブ録音。
- ピアノの詩人、フレデリック・ショパンの名を冠した「フレデリック・ショパン国際ピアノ・コンクール」は1927年から続く現存する最古の音楽コンクールで、ショパンの作品のみで競われる最高峰のピアノ・コンクール。5年に一回の開催ですが、2020年に開催予定だった第18回は新型コロナウィルスの影響で1年延期され、参加者は入念な準備で臨むことができたため、非常にハイ・レヴェルなコンクールとなりました。その混戦を制したのがカナダのブルース・リウです。

【収録曲】 フレデリック・ショパン

- ①-② アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
- ③ マズルカ 嬰ト短調 作品33の1 (第22番)
- ④ マズルカ ニ長調 作品33の2 (第23番)
- ⑤ マズルカ ハ長調 作品33の3 (第24番)
- ⑥ マズルカ ロ短調 作品33の4 (第25番)
- ⑦ 練習曲 嬰ハ短調 作品10の4 (第4番)
- ⑧ 練習曲 イ短調 作品25の4 (第16番)
- ⑨ 夜想曲 嬰ハ短調 作品27の1 (第7番)
- ⑩ ワルツ 変イ長調 作品42 (第5番)
- ⑪ スケルツォ 第4番 ホ長調 作品54
- ⑫-⑬ モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》の『お手をどうぞ』による変奏曲 作品2

ブルース・リウ (ピアノ)

録音: 2021年10月 ワルシャワ、ショパン国際ピアノ・コンクールのライブ録音